

## リアルタイムPCR法を用いた糞便および食品増菌液からの *Campylobacter jejuni/coli* 迅速推定法の検討

保健科学課 高橋 直人・古賀 舞香・松永 典久・丸山 浩幸

第 113 回日本食品衛生学会

*Campylobacter jejuni/coli* (以下 *C. jejuni/coli*) による食中毒は、細菌性食中毒の中で最も発生件数が多く食中毒予防、拡大防止のためには迅速な検査が求められている。そこで、*C. jejuni/coli* のマルチプレックスリアルタイムPCR法(以下 qPCR 法)を用いた糞便および食品増菌液からの迅速な推定法を検討した。設計したプライマーとプローブの特異性を確認し、DNA抽出法は検討の結果、簡易かつ安価であるアルカリ熱抽出法を用いた。上記条件で qPCR 法(以下迅速推定法)と培養法の検査結果を比較したところ食中毒事例の患者便 39 検体のうち、培養法で陽性の検体は、すべて迅速推定法陽性であった。一方、培養法で陰性、迅速推定法で陽性の検体があった。また、食中毒発生と同時期に入手した市内流通食肉の検査を行ったところ、培養法の結果は迅速推定法の結果と一致した。

培養法陽性となったすべての検体は、迅速推定法陽性となったことから、迅速推定法の感度は培養法と同等かそれ以上であると考えられた。本法を用いることで、培養法の結果を 2 日間で推定可能となり、*C. jejuni/coli* による食中毒か否かを検査開始の翌日に推定可能となった。今後は、培養時間を短縮した増菌液からの DNA 抽出法の検討していきたい。